

I 平成20年度事業報告書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

平成18年度から3年間という指定期間が終了し、指定管理者制度導入後初めての区切りを迎える平成20年度は、その集大成として、埼玉から芸術文化を発信する事業を数多く実施し、芸術文化における埼玉の特色をより一層打ち出すよう努めるとともに、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館において、様々な人が集い、触れ合い、感動する、地域のにぎわいの核としての役割を果たすよう努めた。

演劇部門においては、彩の国ファミリーシアターとして、人気漫画を音楽劇にした「ガラスの仮面」を上演し、今まで当財団の演劇部門にはなかったファミリー層という新しい客層を獲得することができた。また、55歳以上の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」の第2回公演「95kgと97kgのあいだ」を上演するなど、当財団独自の事業を展開し、芸術文化の発信を行った。

舞踊部門においては、ナチョ・ドゥアト率いるスペイン国立ダンスカンパニーの「ロミオとジュリエット」など、質の高い公演を実施し、コンテンポラリー・ダンスをリードする旗手の一人として高い評価をいただいた。

音楽部門においては、「児玉桃メシアン・プロジェクト2008」などの特色ある公演から、ポジティブ・オルガンを活用した無料コンサートなどの親しみやすい公演まで、多彩なラインナップを提供し、多種多様な音楽ニーズに応えた。

施設利用においては、利用者アンケートを全面的に見直し利用者ニーズをより細かく把握することにより、より一層の利用者サービスの向上に努めた。

以上のように、平成18年度から平成20年度までの3年間において、芸術文化を埼玉から全国へ発信し続けた実績や、3館の特長に応じそれを活かして文化振興施策を進めた実績などが評価され、平成21年度からの3年間も、引き続き彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の指定管理者として、再び指定を受けることができた。

1 事業の概要

(1) 一般会計

理事会を2回(5月、3月)、評議員会を1回(3月)開催するとともに、組織の適正な管理運営に努めた。

なお、本指定期間の実績が評価され、平成21年度から平成23年度までの3年間についても3館の次期指定管理者として、再び指定を受けることができた。

(2) 文化振興事業特別会計

ア 文化振興事業（104事業）

(ア) 舞台芸術作品、優良公演の提供事業（49事業）

a 彩の国さいたま芸術劇場

(a) 舞踊部門

コンテンポラリー・ダンス界で世界的に活躍がめざましい国内外のカンパニーを招聘した。

ナチョ・ドゥアト率いるスペイン国立ダンスカンパニー「ロミオとジュリエット」では、コンテンポラリー・ダンスのファンばかりでなく、クラシック・バレエの観客層の注目を集め、多くのメディアから年間ベスト公演に取り上げられるなど、高い評価を得た。

また、人気の高いカンパニー「コンドルズ」による「埼玉スペシャル公演2008」では、初めてコンテンポラリー・ダンスを見る新たなファン層を開拓することができた。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ 埼玉スペシャル公演2008	5月	芸術劇場大ホール
ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス「アムジャッド」	7月	芸術劇場大ホール
勅使川原三郎「Here to Here」	9月	芸術劇場大ホール
ナチョ・ドゥアト スペイン国立ダンスカンパニー「ロミオとジュリエット」	11月	芸術劇場大ホール

(b) 音楽部門

優れた音響効果を持つ音楽ホールにおいて、ピアノ、声楽、室内楽など多彩なジャンルのコンサートを実施し、幅広い音楽ニーズに応えた。

昨年度より取り組んでいる「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、30歳以下で将来が囑望される実力派若手ピアニスト4人が登場し高い評価を得た。一方、「諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル」、「ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル」など、知名度の高いアーティストによる公演を実施し、これまでの当劇場の固定客以

外にも広く関心を喚起し、当劇場に来場いただくきっかけとすることができた。

また、メシアン生誕100年を記念して、当劇場、フィリアホール及び浜離宮朝日ホールの3館において「児玉桃メシアン・プロジェクト2008」（計5回、うち当劇場2回）を実施した。このプロジェクトにより、児玉桃が芸術選奨文部科学大臣新人賞及び第27回中島健蔵音楽賞を受賞するなど、大変多くの注目を集めた。

事業名	実施時期	会場
諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル	4月	芸術劇場音楽ホール
ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル	5月	芸術劇場音楽ホール
バハ・コレギウム・ジャパン バハ《ブランデンブルク協奏曲》全曲演奏会	6月	芸術劇場音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol. 5～Vol. 8)	7月～2月	芸術劇場音楽ホール
児玉桃メシアン・プロジェクト2008 第1回レクチャー&コンサート「メシアンの世界への誘い」	9月	芸術劇場音楽ホール
ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団	10月	芸術劇場音楽ホール
児玉桃メシアン・プロジェクト2008 第3回ピアノ・デュオ「《アメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち」	10月	芸術劇場音楽ホール
唐澤まゆ子&荘村清志 デュオ・リサイタル	12月	芸術劇場音楽ホール
堤剛&小山実稚恵 デュオ・リサイタル	3月	芸術劇場音楽ホール

(c) 演劇部門

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、第20弾「から騒ぎ」及び第21弾「冬物語」を上演し、連日満員で好評を博したほか、「身毒丸 復活」、「ムサシ」はいずれも大きな話題を呼んだ。

また、稽古場見学会やバックステージツアーを開催するなど、様々な形で来場者に楽しんでもらえる環境づくりに努めた。

その他、源氏物語が史実で確認されてから千年の節目を記念し、シリーズで実施している「源氏語り五十四帖」に加え、復元楽器による演奏も交えてより親しみやすく源氏物語の世界を紹介した、特別企画「源氏物語の誘惑」を開催し、これまでのファンのみならず、多くの方から好評を博した。

事業名	実施時期	会場
「身毒丸 復活」	4月	芸術劇場大ホール
彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾「から騒ぎ」	10月	芸術劇場大ホール
彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾「冬物語」	1月～2月	芸術劇場大ホール
「ムサシ」	3月	芸術劇場大ホール
彩の国さいたま寄席	4月～1月	芸術劇場小ホール
源氏語り五十四帖（第43～48回）	5月～3月	芸術劇場小ホール
源氏物語千年特別企画「源氏物語の誘惑」	6月	芸術劇場音楽ホール
彩の国シネマスタジオ	4月～3月	芸術劇場映像ホール

b 埼玉会館

ホールの特性を活かし、オーケストラ公演を中心に実施した。

NHK交響楽団によるオーケストラ公演では、指揮に井上道義、ピアノに小曾根真を迎え、ガーシュウインの《ラプソディー・イン・ブルー》など、これまでの当会館でのNHK交響楽団演奏会にはなかったプログラムにより実施した。

事業名	実施時期	会場
井上道義指揮 小曾根真ピアノ NHK交響楽団	7月	埼玉会館大ホール
クリストフ・ゲッショルト指揮 児玉麻里ピアノ 新日本フィルハーモニー交響楽団	10月	埼玉会館大ホール
埼玉会館ニューイヤー・コンサート	1月	埼玉会館大ホール
彩の国シネマスタジオ	9月	埼玉会館小ホール

c 熊谷会館

熊谷地区の夏の恒例公演として定着している「松竹大歌舞伎」を実施した。また、今年度から新たに県北地域においても、「彩の国シネマスタジオ」を実施した。

事業名	実施時期	会場
松竹大歌舞伎	7月	熊谷会館ホール
彩の国シネマスタジオ	2月	熊谷会館ホール

(イ) 普及啓発事業（４９事業）

a 彩の国さいたま芸術劇場

５５歳以上の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」は、５月から６月にかけて第２回公演「９５kgと９７kgのあいだ」を上演した。この作品は、３月に開催された国内外１９組のアーティストによる、フェスティバル／トーキョーに招かれ、初めての県外公演を行った。また、彩の国ファミリーシアターとして、美内すずえ原作の人気漫画「ガラスの仮面」を上演し、より幅広い層の方々に上質な舞台作品を楽しんでいただくことができた。その他、平成２１年度実施予定の「真田風雲録」の出演者のオーディションを行った。

加えて、誰もが気軽に劇場を訪れ、芸術に触れることができるよう、無料の「光の庭プロムナード・コンサート」（計１０回）を実施したほか、管楽器公演に併せた県内高等学校の吹奏楽部員・音楽科生徒対象のクリニックや、パイプオルガンを活用した「みんなのオルガン講座」を実施した。また、音楽ワークショップ「家族でワクワク体験 きいてビックリ！みてビックリ！～魔法の笛たちのひ・み・つ～」では、スタッフを一般県民から公募し、制作・広報を財団職員とともに行うなど、公募スタッフに貴重な経験を提供することができた。「彩の国さいたま芸術劇場ランチタイム・コンサート」では、平日の昼間にショート・プログラムによるコンサートを手頃な価格で実施し、これまで当劇場に足を運んだことのない客層にアピールすることができた。

さらに、親子を対象に、日本の昔話を題材にダンス作品を制作、上演した「日本昔ばなしのダンス」や、過去に当劇場で上演された作品の記録映像を中心とした「videodance 2009 彩の国さいたま芸術劇場ダンスアーカイヴ vol. 1」などを実施した。

その他、小学生とその保護者を対象とした、劇場の仕組みと舞台芸術の楽しさを体感できる「劇場体験ツアー」や、公演前にプレ・コンサート「さいたまアーツ・シアター ライヴ！！」を実施したほか、舞台芸術に対する理解を深めていただくための、蜷川幸雄芸術監督と様々なアーティストとの公開トーク・セッション「NINAGAWA千の目」（計４回）を実施した。

事業名	実施時期	会場
さいたまゴールド・シアター第2回公演「95kgと97kgのあいだ」	5月～6月	芸術劇場大けいこ場
彩の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」	8月	芸術劇場大ホール
「真田風雲録」オーデション	12月～3月	芸術劇場
光の庭プロムナード・コンサート	4月～3月	芸術劇場情報プラザ
みんなのオルガン講座	4月～11月	芸術劇場中練習室他
さいたまアーツ・シアター ライヴ！！	8月～2月	芸術劇場情報プラザ
ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団メンバーによるクリニック	10月	芸術劇場音楽ホール他
家族でワクワク体験 きいてビックリ！みてビックリ！～魔法の笛たちのひ・み・つ～	11月	芸術劇場大練習室
彩の国さいたま芸術劇場ランチタイム・コンサート	12月	芸術劇場音楽ホール
日本昔ばなしのダンス	10月	芸術劇場小ホール
ナチョ・ドゥアト振付作品 レパートリー・ワークショップ	11月	芸術劇場大けいこ場
蜷川幸雄公開対談シリーズ「NINAGAWA千の目」	5月～2月	芸術劇場映像ホール他
ステージクラフト	6月	芸術劇場小ホール
劇場体験ツアー	12月	芸術劇場大ホール
videodance2009 彩の国さいたま芸術劇場 ダンスアーカイヴ vol.1	3月	芸術劇場映像ホール

※ 「さいたまアーツ・シアター ライヴ！！」は「彩の国シェイクスピア・シリーズ」及び「ガラスの仮面」公演に併せて開催

b 埼玉会館

「埼玉会館ファミリー・クラシック パディントンベア™といっしょにコンサートに行こう！」では、3歳以上の未就学児も入場可とし、家族で音楽の楽しみを分かちあえるようなプログラムを用意した。東京交響楽団メンバーによるアンサンブルで実施し、多くの親子に楽しんでいただいた。

また、平日の昼間に「埼玉会館ランチタイム・コンサート」を計3回手頃な価格での料金設定にて実施し、クラシック音楽ファン層の拡大を図ることができた。なお、ランチタイム・コンサート開催に際しては近隣店舗と連携し、チケットの半券提示で特典を準備することにより、地域のにぎわいづくりに努めた。

事業名	実施時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート	6月～11月	埼玉会館大ホール
埼玉会館ファミリー・クラシック パディントンベア™といっしょにコンサートに行こう！	3月	埼玉会館大ホール

c 熊谷会館

「熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストランド！」では、オーケストラの作品をパートごとに分解し、楽器の説明を加えるなど、内容を新たにして実施した。

また、平成18年度から実施しているクラシックバレエ・セミナーは、ボリショイ劇場の元ダンサーを講師に迎え、小学生以上を対象に実施した。

事業名	実施時期	会場
熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストランド!	7月	熊谷会館ホール
熊谷会館クラシックバレエ・セミナー	8月	熊谷会館ホール

d アウトリーチ事業

県内小・中学校へ出張演奏を行うアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」(計10回)を引き続き実施した。

事業名	実施時期	会場
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!	6月～12月	県内小・中学校

(ウ) 県内文化資源の支援事業 (6事業)

「埼玉県高等学校演劇連盟中央発表会」、「県内高校生対象舞台技術講座」及び「埼玉県立芸術総合高等学校舞台技術講習会」では、財団舞台技術スタッフの指導のもと、県内高校生の舞台技術レベルの向上を図った。また、「県内公立文化施設職員舞台技術講習会」では、適切な安全管理や舞台技術の向上を図る取組を行うことで、公立文化施設の活性化と連携強化に寄与した。

その他、大学講座への講師派遣、大学からのインターンシップの受け入れなど、教育機関等との積極的な連携を図った。

事業名	実施時期	会場
埼玉県立芸術総合高等学校舞台技術講習会	8月～9月	芸術劇場小ホール
埼玉県高等学校演劇連盟中央発表会	11月	芸術劇場大ホール
県内高校生対象舞台技術講座	2月	芸術劇場小ホール

事業名	実施時期	会場
県内公立文化施設職員舞台技術講習会	2月	芸術劇場映像ホール
大学生インターンシップ	8月～10月	芸術劇場他
埼玉大学アートマネジメント講座	10月～1月	埼玉大学他

イ 広報に関する事業

(ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザやギャラリーを活用し、舞台芸術等に関連する企画展を開催した。

- a 「現代演劇ポスター展 ―新国立劇場情報センター所蔵品による―
(4月)

新国立劇場情報センター所蔵の平成11年から平成15年の演劇関係のポスターの中から、現代演劇界を振り返るにふさわしいと思われるもの、及びデザインや印刷技術など優れた商業美術としての側面を有するもの約100点を展示（財団法人新国立劇場運営財団との共同主催）。

- b 「ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス写真展」(4月～7月)

27年にわたるラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスの活動の軌跡を、エドゥアール・ロック撮影による写真でたどった。

- c 「はじめてのガラスの仮面展」(7月～8月)

登場人物のプロフィール、劇中劇として扱われた作品が実際に上演された際のポスター、登場人物の相関図など、豊富なビジュアルとともに「ガラスの仮面」の世界を紹介。

- d 「彩の国シェイクスピア・シリーズ展」(8月～3月)

彩の国シェイクスピア・シリーズ第1弾「ロミオとジュリエット」から第20弾「から騒ぎ」までの舞台写真をパネル展示。

- e 「中越司の舞台美術展」(3月)

数多くの蜷川幸雄演出作品の舞台装置を手がける中越司を取り上げ、舞台空間をどのようなコンセプトに基づいて創ろうとしたのか、自身の言葉で紹介。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころや蜷川幸雄芸術監督の公開トーク・セッションの内容を掲載するなど、読みやすく、かつ充実した内容の情報誌を目指し、編集を行った。

- a 発行回数、部数 年6回 各13,000部発行
- b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

財団の活動を支援する個人の会員組織「メンバーズ」への加入促進に努めた。「メンバーズ」の会員には、財団情報誌を送付するとともに、財団主催事業のチケットについて優先販売と割引サービスを行うことにより、チケットの販売促進を図った。

メンバーズ会員数 6,091人

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」への加入促進に努めた。「冬物語」上演時には懇親会も実施した。

サポーター会員数 86社

(3) 施設管理事業特別会計

ア 彩の国さいたま芸術劇場施設管理事業

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

利用者アンケートを満足度が把握できるようにするなど全面的に見直すとともにアンケート回収強化月間を設け積極的な回収を図るなど、利用者ニーズの把握に努めた。アンケートなどで寄せられた提案や意見はできる限り利用者サービスに反映することを心がけ、本年度はポスター印刷サービスやCDラジカセの貸出の開始、施設内外のサイン表示の見直しなど、お客様の目線による利用者サービスの向上に取り組んだ。

併せて、抽選で希望日から外れた利用希望者に対し代替日を斡旋するなど、施設の利用促進に努めた。

また、舞台芸術資料室について、ホームページからの資料検索サービスの開始、彩の国シェイクスピア・シリーズ翻訳家の文庫コーナーの設置、利用時間の延長など、資料室の活性化と利用促進を図った。

総来場者数 378,979人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	1,124	753	67.0
けいこ場・練習室	3,775	3,437	91.0
計	4,899	4,190	85.5

イ 埼玉会館施設管理事業

埼玉会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

平成20年度は、会議室において夜間区分利用キャンペーンの実施や和室利用の活性化を実施したほか、展示室において会館主催や共催による企画展を開催するなど、施設の利用促進や有効活用に努めた。

また、ホームページから会議室利用申込書様式のダウンロードを可能にするなど利用者サービスの向上を図ったほか、利用者アンケートを全面的に見直し利用者ニーズの把握に努めた。

総来場者数 659,989人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	6 4 5	5 4 4	8 4 . 3
会議室	5, 9 0 7	4, 5 0 3	7 6 . 2
展示室	1, 0 3 3	7 4 0	7 1 . 6
計	7, 5 8 5	5, 7 8 7	7 6 . 3

ウ 熊谷会館施設管理事業

熊谷会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

平成20年度は、施設利用に関するシステムを導入するとともに、ホームページ上での会議室の空き状況の公開を行うなど、利用者サービスの向上を図った。

また、利用者アンケートを全面的に見直すとともに、アンケート回収強化月間を適宜設け積極的な回収を図るなど、利用者ニーズの把握に努めた。

なお、平成21年2月25日から3月25日までの間、ホール屋上防水改修工事を行い、延べ20日ホールの貸出を休止した。

総来場者数 1 3 0, 3 0 9 人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	3 0 5	1 6 8	5 5 . 1
会議室	1, 0 4 8	8 9 5	8 5 . 4
展示室	3 4 4	2 4 9	7 2 . 4
計	1, 6 9 7	1, 3 1 2	7 7 . 3

2 役職員に関する事項

(1) 役員数 (平成21年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1	1	
専務理事	1	—	1	県派遣 1
理 事	—	7	7	
監 事	—	2	2	
計	1	10	11	

(2) 職員数 (平成21年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
部 長	2	—	2	県派遣 1
館長・副館長	3	—	3	県派遣 2
グループリーダー・課長	4	—	4	県派遣 3
主 査	16	—	16	県派遣 5
主 任	11	—	11	
主 事	10	—	10	
専 門 員	2	—	2	
芸術監督	—	1	1	
プロデューサー	—	1	1	
その他非常勤職員	—	7	7	
計	48	9	57	県派遣 11